

			シヨン		
		4	見守り	634	
		5	後始末	635	
	4	体操	1 準備	641	
		2	誘いかけ・拒否時の説明	642	
		3	実施・評価・デモンストレーション	643	
		4	見守り	644	
		5	後始末	645	
	5	物理療法 (牽引・温熱・電気療法など) マッサージ	1 準備	651	
		2	誘いかけ・拒否時の説明	652	
		3	実施・評価・デモンストレーション	653	
		4	見守り	654	
		5	後始末	655	
	6	その他の機能訓練 (日常生活動作訓練など)	1 準備	661	
		2	誘いかけ・拒否時の説明	662	
		3	実施・評価・デモンストレーション	663	
		4	見守り	664	
		5	後始末	665	
	9	その他	9 その他	699	
7	問題行動	1	問題行動発生時の対応	1 準備	711
			2 誘いかけ・拒否時の説明	712	
			3 対応	713	
			4 見守り	714	
			5 後始末	715	
		2	問題行動の予防的対応	1 準備	721
			2 誘いかけ・拒否時の説明	722	
			3 対応	723	
			4 見守り	724	
			5 後始末	725	
			1	準備	731

		3	問題行動の予防的訓練	2	誘いかけ・拒否時の説明	732
				3	対応	733
				4	見守り	734
				5	後始末	735
		9	その他	9	その他	799
8	医療・看護	1	薬物療法 (経口薬・坐薬 注射・自己注射 輸液・輸血 など)	1	準備	811
				2	誘いかけ・拒否時の説明	812
				3	実施	813
				4	観察(内服、自己注射施行時など)	814
				5	後始末	815
		2	呼吸器・循環器・ 消化器 泌尿器にかかる 処置 (吸引・吸入・排痰 経口・経管 栄養 摘便・浣腸 など)	1	準備	821
				2	誘いかけ・拒否時の説明	822
				3	実施	823
				4	観察	824
				5	後始末	825
		3	運動器・皮膚・ 眼・耳鼻咽喉 歯科及び手術に かかる処置 (牽引・固定 温・冷罨法 など)	1	準備	831
				2	誘いかけ・拒否時の説明	832
				3	実施	833
				4	観察	834
				5	後始末	835
		4	観察・測定・検査	1	準備	841
				2	誘いかけ・拒否時の説明	842
				3	実施	843
				5	後始末	845

		5	指導・助言	1	準備	851
				2	誘いかけ・拒否時の説明	852
				3	実施	853
				5	後始末	855

3桁	大分類	2桁	中分類	1桁	小分類	コード
8	医療・看護	6	診察介助	1	準備	861
				2	誘いかけ・拒否時の説明	862
				3	実施	863
				5	後始末	865
		7	感染予防	3	実施（消毒液などを用いる手洗いなど）	873
		8	巡視	3	実施	883
		9	その他	9	その他	899
9	その他の業務	1	その他の日常生活 (起床・就寝、 集う テレビを 見る 読書をする たばこを 吸うなど)	1	準備	911
				2	誘いかけ・拒否時の説明	912
				3	介助	913
				4	見守り	914
				5	後始末	915
		2	行事・クラブ活動	1	準備	921
				2	誘いかけ・拒否時の説明	922
				3	実施・評価	923
				4	見守り	924
				5	後始末	925
		3	コミュニケーション	1	挨拶・日常会話	931
				2	心理的支援・訴えの把握	932
				3	その他のコミュニケーション	933

		4	伝達	934
4	入所（院）者物品管理	1	入所（院）者物品管理（物品購入を含む）	941
5	情報収集・生活指導	1	情報収集	951
		2	生活指導	952
6	環境整備	1	寝具・リネン整備	961
		2	ベッド周囲環境整備・掃除	962
		3	入所（院）者の病棟等環境整備・掃除（職員に関する場所を除く）	963
		4	洗濯	964
7	記録・調整 （職員に関することを除く）	1	記録（看護・介護記録記入など）	971
		2	施設内調整業務（申し送りなど）	972
		3	施設外を含む調整業務	973
8	職員に関すること	1	移動	981
		2	手洗い（消毒液などを用いないもの）	982
		3	待機（仮眠）	983
		4	職員に関する記録・調整	984
		5	休憩	985
		6	職員に関する環境整備・掃除（入所（院）者に関する場所を除く）	986
		7	その他職員に関すること	987
9	その他	9	その他	999

精神及び知的障害者の介護ニーズの評価手法の開発に関する研究

分担研究者 安西信雄 国立精神・神経センター精神保健研究所社会精神保健部長
研究協力者 西村秋生、山内慶太、三村将、佐藤久夫、天笠崇、湯汲英史、宮本有紀、
荒田寛、瀬戸屋雄太郎、小高真美、槇野葉月、中西三春

研究要旨

現行の要介護認定一次判定の手法を用いて精神障害者および知的障害者の介護ニーズを評価できるか、評価方法の修正や追加が必要かを検討するため本研究を実施した。対象は何らかの福祉的サービスを受けている者で、精神障害者493人、知的障害者366人であった。これらの対象につき、現行要介護認定に準じた認定調査員評価および主治医意見書記入を実施し、追加調査として認定調査員、医師、ケア担当者および施設管理者による評価を実施した。

その結果、知的障害については要介護認定における一次判定結果と、障害程度区分（生活関連動作支援項目）、GAF、HoNOS、介護支援専門員からみた要介護度との間に比較的高い相関が認められた。一方、精神障害については要介護認定一次判定とGAF、BPRS、介護支援専門員から見た要介護度との相関は低かった。精神障害者を一次判定による非該当と要支援、要介護1、要介護2の4群に分け、GAFやIADL、ケアニーズ評価等の分布の中央値と第1四分位値および第2四分位値等を比較したところ、一次判定評価が重いほど各評価の中央値は重い順になっていたが、各一次判定評価内でのばらつきが大きく、一次判定間の重複も大きかった。また、精神障害者を一次判定による非該当と要支援、要介護1以上の3群に分け、要介護認定項目群について検討したところ、第5群「身の回りの世話等」、第7群「問題行動等」などで要介護群が他の群より有意に高く評価されていた。

以上により、本研究の対象者については、現行要介護認定基準は身体介護等介護ニーズの一部を反映していると考えられた。しかしながら、知的・精神障害それぞれにおいて、現行要介護認定で評価される要因以外の関与も考えられ、今後介護ニーズをより適切に評価する、タイムスタディ等客観的な方法の開発が必要であると考えられた。

A. 研究目的

2000年から介護制度が発足し高齢者や特定の疾患を有する患者を対象として要介護認定が運用されてきたが、これらの対象者が主として身体的介護のニーズを有するのに対して、精神障害および知的障害については身体的介護以外の介護ニーズが高いという指摘がある。そこで、これらの障害に対応した介護ニーズの評価方法開発のため、平成15年度厚生労働科学研究費補助金厚生労働特別研究事業「精神障害を有する者にかかるケアニーズの適切な評価に関する基礎的調査研究(H15-特別-013)」(主任：安西)において平成15年10月から研究が組み込まれ、精神および知的障害を有する人々の介護ニーズに関連した国内外の代表的な評価尺度を収集し、これらの対象者が有する身体的以外の介護ニーズも含む評価項目(以下、「追加項目」

と称する)が準備された。

本研究は何らかの福祉的ケアを受けている精神障害者および知的障害者を対象に、現行の要介護認定項目とともに、上記の追加項目も用いた評価を行い、これらの対象者に対して、

- 1) 現行の要介護認定一次判定の手法を用いて精神障害および知的障害者の介護ニーズを評価できるか
- 2) 評価方法の修正や追加が必要かを明らかにすることを目的に実施した。

B. 研究方法

1. 対象

精神障害(高次機能障害を含む)および知的障害(自閉症を含む)を持ち、介護ニーズのある人たちで、文書により同意が得られた人。援護寮、福祉ホーム、グループホーム等の居住施

設、および、就労支援等に関する通所・入所施設、および精神科療養病棟（精神障害）、重症心身障害児施設（知的障害）を評価の場とした。

精神障害および知的障害について、実際の障害者数を考慮して施設類型別に目標数を設けて対象者数の目標を設定した。

調査対象者は知的障害366人、精神障害493人、合計859人であった。施設類型別対象者数を表1に、診断別対象者数を表2に示した。

1) 施設類型別対象者数

施設類型別の対象者数を表1に示した。対象者は下記のように各種の入所系施設および通所系施設のサービスを受けている者であった。高次脳機能障害のリハビリテーション施設の44人も調査対象とした。

表1. 対象者の所属施設

施設の種類の種類		N	%	
知的障害	入所更生施設	151	41.3	
	通所更生施設	40	10.9	
	通所授産施設	79	21.6	
	重症心身障害児施設	50	13.7	
	入所授産施設	16	4.4	
	通勤寮	30	8.2	
知的障害 計		366	100.0	
精神障害	生活訓練施設	101	20.5	
	通所授産施設	107	21.7	
	グループホーム	31	6.3	
	福祉ホームB	11	2.2	
	福祉ホームA	12	2.4	
	地域生活支援センター	19	3.9	
	就労支援センター	10	2.0	
	精神科療養病棟	158	32.0	
	高次脳機能障害	44	8.9	
	精神障害 計		493	100.0
				0

2) 診断別対象者数

施設類型別診断別の対象者数を表2に示した。診断は医師調査票に書かれた主診断を用

いた。知的障害ではF7(精神遅滞)が226人(知的障害の62%)で、F8(心理的発達障害)が51人(同14%)であった。精神障害ではF2(統合失調症)が241人(精神障害の49%)で、F3(気分障害)、F0(器質性精神障害)がそれについていた。

2. 評価方法

下記の評価を実施した（使用した調査票と評価尺度は資料を参照）。

1) 本人調査票「ケアニーズに関するアンケート調査」の記入

厚生労働省・日本精神科病院協会が実施した社会復帰サービスニーズ調査で使用されたものから一部を抜粋し、QOL等の評価を加えた。

2) 医師による「医師調査票」と「追加調査」の記入

医師調査票：要介護認定で用いられている主治医意見書に同様に記入（一部項目を省略）

追加調査

①行動の計画および遂行に関する能力評価（3項目）

②GAF(機能の全般的評定)

③ADL(日常生活動作)とIADL(手段的日常生活動作)

④BPRS(簡易精神症状評価表)Oxford版と病識評価(精神障害のみ)

3) 認定調査員による「認定調査票」と「追加項目」の記入

①認定調査票：通常の認定調査と同様に実施して記入（一部項目を省略）

②追加項目

追加-1 行動の評価（追加12項目）

追加-2 上記以外（自由記述）

追加-3 各調査項目に対する意見

追加-4 介護支援専門員から見た要介護度

4) 日常のケア担当者による評価

①今回の施設利用の開始年月日

②対象者が利用している入所サービス名と頻度、費用

③対象者が利用している通所サービス名と頻度

④今までに受けている各種の障害等級・認定等

⑤知能評価（記録がある場合）

⑥強度行動障害者特別支援加算の評価を実施している場合、その点数

⑦実施しているケアの「直接的なケア」と「見守り」の時間%の記入

- ⑧障害程度区分のチェック項目の記入
 ⑨ケア必要度(対人ケアサービスのニーズ)評価(精神障害者ケアガイドライン検討委員会版(精神障害者のみ))

⑩HoNOS-LD(Health of the Nation Outcome Scale-LD)包括アウトカム尺度知的障害版

表2 施設類型別 診断別対象者数

	F0	F1	F2	F3	F4	F6	F7	F8	その他
知的障害									
入所更生施設	5						89	48	9
通所更生施設	2						36	2	
通所授産施設							61	1	17
重症心身障害児施設	20					5	10		15
入所授産施設									16
通勤寮							30		
知的障害 合計	27	0	0	0	0	5	226	51	57
精神障害									
生活訓練施設	1	1	44	6	3	1	2		43
通所授産施設	1	1	41	1	1				62
グループホーム	1		7	1			1		21
福祉ホームB			8	1					2
福祉ホームA			11						1
地域生活支援センター			8	1					10
就労支援センター	1		6	2					1
精神科療養	8	2	116	5	1	1	6		19
高次脳機能障害									44
精神障害 合計	12	4	241	17	5	2	9	0	203
総合計	39	4	241	17	5	7	235	51	260

注 (ICD-10の符号が表す診断名)

- F0 症状性を含む器質性精神障害
- F1 精神作用物質使用による精神および行動の障害
- F2 統合失調症、分裂病型障害および妄想性障害
- F3 気分(感情)障害
- F4 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害
- F6 成人の人格および行動の障害
- F7 精神遅滞
- F8 心理的発達の障害
- その他

5) 施設基本調査票

- ①施設の種別、職員数等の基本的な事項
- ②調査対象者のケアにかかる時間の評価

3. 認定調査員評価の信頼性を高めるための説明会の実施

本研究の調査を実施した認定調査員は高齢者

の認定調査の熟練者であるが、知的障害および精神障害については経験が乏しい可能性があったため、2004年6月にこれらの障害者の面接方法についての説明会を実施した。説明会に参加できなかった認定調査員には説明会のビデオを閲覧後に調査を実施するよう求めた。

表3 施設毎にみた要介護認定の一次判定結果

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
入所更生施設	2	26	71	15	8	7	2	131
通所更生施設			13	10	5	5	3	36
通所授産施設	23	32	17	1				73
重症心身障害児施設			2	5	8	11	15	41
入所授産施設								
通勤寮	18	3	3					24
知的障害	43	61	106	31	21	23	20	305
生活訓練施設	32	35	11					78
通所授産施設	46	27	9					82
グループホーム	5	1	1					7
福祉ホームB	5	6						11
福祉ホームA	2	7	2					11
地域生活支援センター	8	8	2					18
就労支援センター	6	1						7
精神科療養	56	52	34	11	1			154
高次脳機能障害	2	3	5	1				11
精神障害	162	140	64	12	1	0	0	379

4. データ処理の方法

1) 要介護認定における一次判定

上記の認定調査員による認定調査票記入結果および医師調査票にもとづき、判定ソフトにより一次判定を求めた。

2) 一次判定結果と介護支援専門員が判断した要介護度や、追加評価として実施した障害程度区分やGAF等の諸評価との関連を検討した。

2) 統計処理はWindows版SPSS ver. 11を用いた。

(倫理面への配慮)

国立精神・神経センター倫理委員会に申請し承認を得て実施した。

具体的には、①文書および口頭にて対象者に研究の主旨や目的を説明し、同意が得られた者のみを研究の対象者とする、②施設内でID照会リストを作成し、集計データには氏名等の個人を特定しうる情報は含めず、データを厳重に保管すること、③研究結果は、統計的手法を用いて分析し、個人が特定されない形式で公表すること等である。なお、認定調査員からはあらかじめ守秘義務誓約書を得た。

C. 研究結果

1. 一次判定結果の施設類型別分布

要介護認定における一次判定の結果を、知的障害者と精神障害者の施設類型別に表3に示した。

知的障害では一次判定結果でもっとも多かったのは「要介護1」(106人)で、これをピークに「非該当」から「要介護5」まで幅広く分布していた。それぞれの施設類型ごとに、一次判定結果が広い範囲にわたっており、たとえば、入所更生施設では、もっとも多かったのは「要介護1」の71人であったが、「要支援」は26人、「非該当」は2人で、「要介護2」は15人、「要介護3」は8人、「要介護4」は7人、「要介護5」は2人となっていた。重症心身障害児施設では「要介護5」(15人)にピークがあったが、「要介護1」の者も含まれていた。

精神障害では一次判定でもっとも多かったのは「非該当」(162人)で、「要支援」が140人、「要介護1」が64人であり、「要介護2」は12人、「要介護3」は1人で、「要介護4」または「要介護5」と評価された者はいなかった。いずれの施設類型においても、「非該当」から「要介護1」の範囲に判定される傾向がみられた。精神科療養病棟の在院患者でも「非該当」(56人)と「要支援」(52人)が多く、「要介護1」は34人、「要介護2」は11人で、「要介護3」は1人のみであった。

以上のように一次判定結果の分布は、知的障害は「非該当」から「要介護5」まで幅広く分布していたのに対し、精神障害は「非該当」と「要支援」を中心に軽度の評価に偏って分布していた。

表4. 変数間のSpearman相関分析

	一次判定	
	N	rs
知的障害者		
認定調査員からみた要介護度	305	0.764
GAF尺度	302	-0.778
HoNOS得点	300	0.775
ADL	296	0.681
IADL困難	278	0.780
IADL実施	301	0.625
障害程度区分		
38項目総得点	305	0.816
生活支援関連	305	0.814
社会参加関連	305	0.770
生活+社会4項目	305	0.810
社会-4項目	305	0.798
精神障害者		
認定調査員からみた要介護度	408	0.192
GAF尺度	320	-0.287
BPRS	310	0.142
ケア必要度	377	0.297
ADL	316	0.174
IADL困難	306	0.372
IADL実施	318	0.339
障害程度区分		
38項目総得点	406	0.321
生活支援関連	406	0.304
社会参加関連	406	0.326
生活+社会4項目	406	0.292
社会-4項目	406	0.321

一次判定と変数との相関は全て危険率5%で有意である。

表4の上段は、知的障害者の要介護認定における一次判定結果と、今回追加評価として実施した諸評価とのSpearmanの相関を示したものである。知的障害者の一次判定結果は、障害程度区分の38項目総得点、障害程度区分の生活関連動作支援項目、GAF、HoNOSおよび介護支援専門員からみた要介護度等の変数と相関が有意であり、比較的高い相関係数が認められた。

表4の下段は、精神障害者の要介護認定における一次判定結果と、追加評価とのSpearmanの相関を示したものである。精神障害者の一次判定結果は、障害程度区分の38項目総得点、障害程度区分の生活関連動作支援項目、GAF、BPRSおよび介護支援専門員からみた要介護度等の変数と相関が有意であったが、相関係数は低かった。一次判定結果との相関がもっとも高かったのはIADL(困難)で、IADL(実施)、障害程度区分の評価がそれに続いていた。

2. 精神障害者の一次判定結果と追加評価

1) 一次判定結果の群別にみた各評価の分布
精神障害者を一次判定結果により「非該当」と「要支援」、「要介護1」および「要介護2」の4群に分け、GAFやIADL、ケアニーズ評価等の分布を比較した。その結果を図1から図8の「箱ひげ図」に示す。箱の下端は第1四分位値(下ヒンジ)、上端は第3四分位値(上ヒンジ)で、中央の横線が中央値である。下ヒンジから上ヒンジまでの距離を「ヒンジ散布度」とし、単位hで表す。「ひげ先(下)」は下ヒンジから小さい方に1.5hの範囲内に実在する最も小さいデータで、「ひげ先(上)」は上ヒンジから大きい方に1.5hの範囲内に実在する最も大きいデータを表す。点は外れ値を表す。

図1は一次判定結果とGAF評価との関連、図2はBPRS評価との関連、図3はケア必要度評価との関連、図4はIADL(困難)評価との関連、図5はIADL(実施)評価との関連、図6は障害程度区分(生活支援関連項目)評価との関連、図7は障害程度区分(社会参加関連項目)評価との関連を表す。

図1は一次判定結果とGAF評価との関連をみたものであるが、一次判定結果が重い群(横軸の右)になるほど、箱ひげ図の中央値は低かった(GAFの評価が重かった)が、箱ひげ図の上ヒンジと下ヒンジ、および、上下の「ひげ先」が一次判定結果の各段階間で重なっていた。

図4のIADL(困難)評価などでは、図から一次判定評価間の中央値の差が比較的大きいように見えるが、一次判定結果の各群間の箱ひげ図の上ヒンジ~下ヒンジの重なりは大きいので、一次判定結果による各群間でIADL(困難)評価が弁別されるとは言えなかった。

以上のように、図1~7のいずれにおいても、一次判定結果が重いほど各評価の中央値は重かったが、各一次判定結果による各群内でのばらつきが大きく、一次判定による各群間の重複も大きかった。

図1. 要介護度別にみたGAF尺度の分布

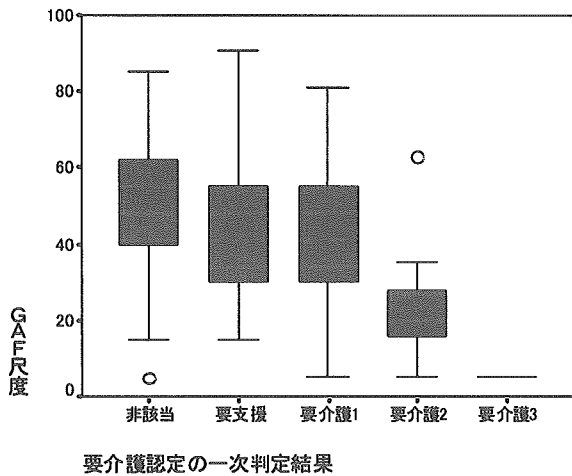


図4. 要介護度別にみたIADL困難の分布

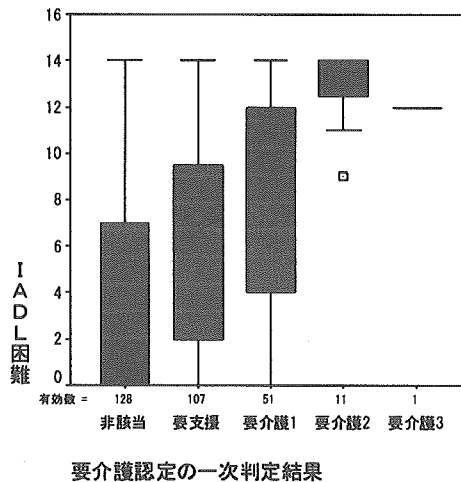


図2. 要介護度別にみたBPRSの分布

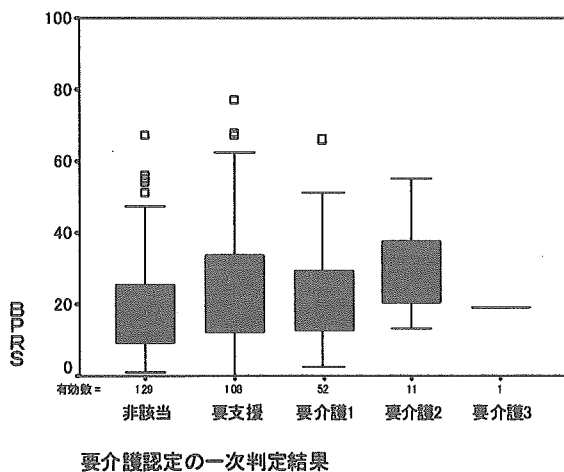


図5. 要介護度別にみたIADL実施の分布

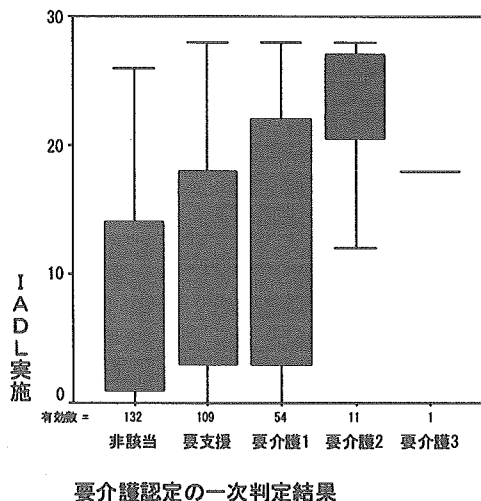


図3. 要介護度別にみたケア必要度の分布

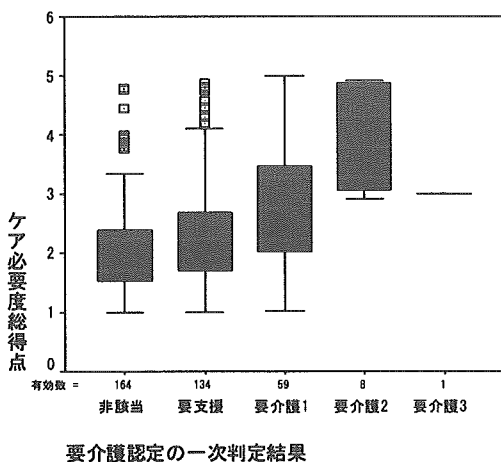


図6. 要介護度別にみた障害程度区分（生活支援関連項目合計点）の分布

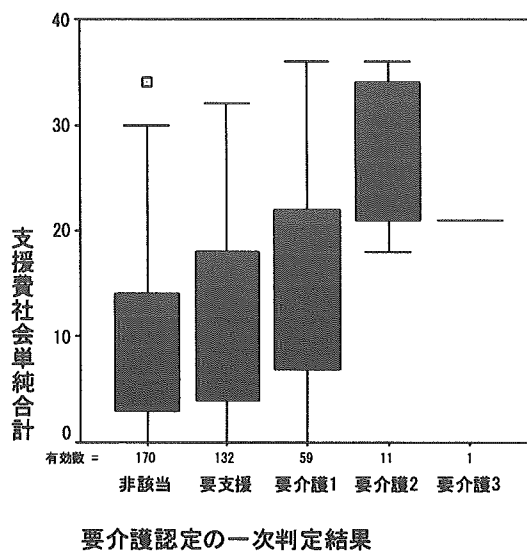
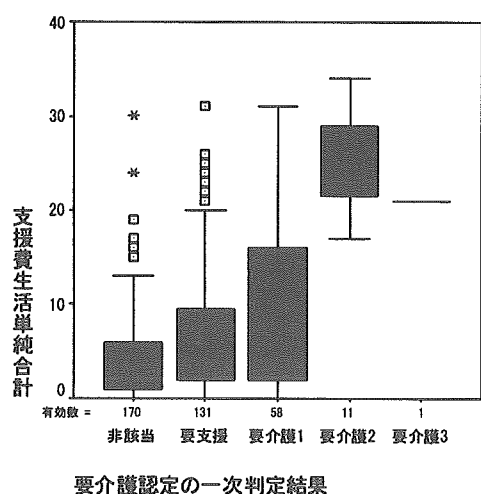


図7. 要介護度別にみた障害程度区分（社会参加関連項目合計点）の分布



2) 一次判定結果の群別にみた状態像

精神障害者について、一次判定結果による各群の心身の状態（状態像）を比較検討するために、一次判定結果により「非該当」、「要支援」、および「要介護1以上」の3群に分け、それぞれの群別にみた状態像を要介護認定項目群ごとの分布により検討した。

結果を表5に示した。表5-1は第1群「麻痺・拘縮等」、表5-2は第2・3群「移動・複雑な動作等」、表5-3は第4群「特別な介護等」、表5-4は第5群「みのまわりのことなど」、表5-5は第6群「コミュニケーション関連」、表5-6は第7群「問題行動等」、表5-7は今回の調査の際に認定調査員により評価された追加項目をみたものである。それぞれの状態像に含まれる評価項目ごとに分散分析を実施した。

一次判定結果により「非該当」、「要支援」および「要介護1以上」の3群に分け、3群間で各認定項目への回答に違いがあるかどうかを一元配置分散分析を用いて比較した。その後の検定(対検定)では、Turkey法を用いて補正した。分散分析の結果、ほとんど全ての項目で群間に

有意差がみられたので、その後の検定の結果を表の右端に示した。なお、「要介護1以上」対「要支援」を「介vs支」、「要介護1以上」対「非該当」を「介vs非」、「要支援」対「非該当」を「支vs非」と表記した。

第1群「麻痺・拘縮等」(表5-1)、第2・3群「移動・複雑な動作等」(表5-2)、第4群「特別な介護等」(表5-3)、第6群「コミュニケーション関連」(表5-5)では、いくつかの項目で「要介護1以上」と「要支援」、「要介護1以上」と「非該当」との間に分散分析で有意差が認められたが、「要介護1以上」の群においても重い評価の出現頻度が低いものが多く、有意差のみられない項目もあった。

第5群「身の回りのことなど」(表5-4)と第7群「問題行動等」(表5-6)では、すべての項目について「要介護1以上」対「要支援」、「要介護1以上」対「非該当」との間に分散分析で有意差がみられた。これは「要介護1以上」の群で各項目の評価が2または3の評価を受けたものが多かったことを反映していると考えられた。このように第5群と第7群では「要介護1以上」の群は「要支援」や「非該当」の群と比べて有意に重く評価されていた。しかし、「要支援」と「非該当」の群の間では有意差が認められた項目は少なかった。

今回の調査の追加項目(表5-7)については、「妄想など」や「切符・料金支払い」「こだわり」「注意散漫」等で「要介護1以上」対「要支援」または「非該当」との間に有意差が見られた。しかし、これらの項目においても、「要支援」対「非該当」では有意差がみられないものが多かった。

表5-1 精神障害者の一次判定結果群別にみた状態像－第1群 麻痺・拘縮等

第1群 麻痺・拘縮等	非該当 (N=180)		要支援 (N=147)		要介護1以上 (N=81)		分散分析(その後の検定)		
	1	2	1	2	1	2	介vs支	支vs非	支vs非
麻痺(左-上肢)	180	0	146	1	79	2			
麻痺(右-上肢)	180	0	146	1	78	3		*	
麻痺(左-下肢)	179	1	141	6	74	7		*	
麻痺(右-下肢)	179	1	141	6	74	7		*	
麻痺(その他)	177	3	144	3	79	2			
拘縮(肩関節)	180	0	143	4	79	2			
拘縮(肘関節)	180	0	147	0	79	2	*	*	
拘縮(股関節)	180	0	147	0	80	1			
拘縮(膝関節)	178	2	145	2	77	4			
拘縮(足関節)	180	0	146	1	77	4	*	*	
拘縮(その他)	180	0	144	3	78	3			

* p<0.05 Tukey法

表5-2 精神障害者の一次判定結果群別にみた状態像－第2・3群 移動・複雑な動作等

第2・3群 移動・複雑な動作等	非該当 (N=180)				要支援 (N=147)				要介護1以上 (N=81)				分散分析(その後の検定)		
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	介vs支	支vs非	支vs非
寝返り	178	2	0	—	142	5	0	—	80	1	0	—			
起き上がり	179	1	0	—	139	8	0	—	75	5	1	—		*	
座位保持	180	0	0	0	146	1	0	0	80	1	0	0			
両足立位保持	180	0	0	—	144	2	1	—	74	7	0	—	*	*	
歩行	179	1	0	—	142	3	2	—	73	7	1	—	*	*	
移乗	180	0	0	0	147	0	0	0	78	2	1	0	*	*	
移動	180	0	0	0	146	1	0	0	74	6	1	0	*	*	
立ち上がり	178	2	0	—	137	10	0	—	67	14	0	—	*	*	
片足立位保持	176	4	0	—	133	13	1	—	60	19	2	—	*	*	*
洗身	171	9	0	0	136	11	0	0	48	29	4	0	*	*	*

* p<0.05 Tukey法

表5-3 精神障害者の一次判定結果群別にみた状態像－第4群 特別な介護等

第4群 特別な介護等	非該当 (N=180)				要支援 (N=147)				要介護1以上 (N=81)				分散分析(その後の検定)		
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	介vs支	支vs非	支vs非
じよくそう	180	0	—	—	147	0	—	—	79	2	—	—	*	*	
皮膚疾患	158	22	—	—	130	17	—	—	70	11	—	—			
嚥下	176	4	0	—	143	4	0	—	65	16	0	—	*	*	
食事摂取	174	6	0	0	144	3	0	0	68	12	1	0	*	*	
飲水	175	5	0	0	143	3	1	0	65	11	5	0	*	*	
排尿	178	2	0	0	146	1	0	0	71	2	6	2	*	*	
排便	180	0	0	0	147	0	0	0	73	1	6	1	*	*	

* p<0.05 Tukey法

表5-4 精神障害者の一次判定結果群別にみた状態像－第5群 身の回りのことなど

第5群 身の回りのことなど	非該当 (N=180)				要支援 (N=147)				要介護1以上 (N=81)				分散分析(その後の検定)		
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	介vs支	支vs非	支vs非
5口腔清潔	178	2	0	—	136	11	0	—	55	24	2	—	*	*	
洗顔	178	2	0	—	136	11	0	—	57	24	0	—	*	*	
整髪	178	2	0	—	137	10	0	—	60	20	1	—	*	*	
つめ切り	175	4	1	—	128	15	4	—	40	25	16	—	*	*	*
上衣の着脱	180	0	0	0	146	1	0	0	67	9	5	0	*	*	
ズボン等の着脱	180	0	0	0	146	1	0	0	65	9	7	0	*	*	
薬の内服	101	79	0	—	84	59	4	—	23	49	9	—	*	*	*
金銭管理	130	28	22	—	46	89	12	—	16	41	24	—	*	*	*
電話の利用	173	7	0	—	128	16	3	—	55	17	9	—	*	*	*
意思決定	124	54	2	0	120	21	6	0	36	33	11	1	*	*	

* p<0.05 Tukey法

表5-5 精神障害者の一次判定結果群別にみた状態像－第6群 コミュニケーション関連

第6群 コミュニケーション関連	非該当 (N=180)				要支援 (N=147)				要介護1以上 (N=81)				分散分析(その後の検定)		
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	介vs支	介vs非	支vs非
視力	178	2	0	0	145	1	1	0	74	6	0	1	*	*	
聴力	176	3	1	0	143	3	1	0	77	3	1	0			
意思伝達	174	6	0	0	138	9	0	0	60	16	5	0	*	*	
介護者の指示への反応	177	3	0	—	145	2	0	—	64	15	2	—	*	*	
毎日の日課を理解	174	6	—	—	144	3	—	—	66	15	—	—	*	*	
生年月日をいう	178	2	—	—	145	2	—	—	75	6	—	—	*	*	
短期記憶	178	2	—	—	147	0	—	—	69	12	—	—	*	*	
自分の名前をいう	180	0	—	—	147	0	—	—	79	2	—	—	*	*	
今の季節を理解	176	4	—	—	143	4	—	—	69	12	—	—	*	*	
場所の理解	179	1	—	—	145	2	—	—	71	10	—	—	*	*	

* p<0.05 Tukey法

表5-6 精神障害者の一次判定結果群別にみた状態像－第7群 問題行動等

第7群 問題行動等	非該当 (N=180)			要支援 (N=147)			要介護 (N=81)			分散分析(その後の検定)		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	介vs支	介vs非	支vs非
被害的	169	5	6	131	9	7	56	12	13	*	*	
作話	173	3	4	140	1	6	67	8	6	*	*	
幻視幻聴	150	4	26	113	6	28	49	9	23	*	*	
感情が不安定	180	0	0	127	8	12	28	31	22	*	*	*
昼夜逆転	179	1	0	114	21	12	53	17	11	*	*	*
暴言暴行	167	11	2	127	13	7	55	18	8	*	*	
同じ話をする	170	7	3	129	9	9	46	15	20	*	*	
大声を出す	170	7	3	140	3	4	51	13	17	*	*	
介護に抵抗	172	6	2	132	11	4	52	19	10	*	*	
常時の徘徊	179	1	0	139	4	4	56	12	13	*	*	
落ち着きがない	180	0	0	144	0	3	72	8	1	*	*	
外出して戻れない	180	0	0	140	2	5	59	3	19	*	*	
一人で出たがる	179	1	0	141	1	5	68	1	12	*	*	
収集癖	177	2	1	141	3	3	71	2	8	*	*	
火の不始末	180	0	0	141	5	1	68	6	7	*	*	
物や衣類を壊す	180	0	0	141	2	4	70	8	3	*	*	
不潔行為	180	0	0	146	1	0	74	5	2	*	*	
異食行動	180	0	0	147	0	0	77	2	2	*	*	
テひどい物忘れ	178	1	1	141	4	2	65	9	7	*	*	

* p<0.05 Tukey法

表5-7 精神障害者の一次判定結果群別にみた状態像－今回の調査の追加項目

追加項目	非該当 (N=180)			要支援 (N=147)			要介護 (N=81)			分散分析(その後の検定)		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	介vs支	介vs非	支vs非
追加1自傷	177	0	3	144	2	1	73	5	3	*	*	
追加2奇声	177	0	3	142	3	2	68	6	7	*	*	
追加3パニック状態	160	10	10	136	6	5	52	19	10	*	*	
追加4こだわり	157	6	17	108	8	31	47	14	20		*	*
追加5注意散漫	162	11	7	116	15	16	46	15	20	*	*	*
追加6妄想など	141	11	28	98	12	37	38	13	30	*	*	*
追加7衝動的	169	7	4	124	15	8	52	20	9	*	*	
追加8過活動	168	7	5	127	13	7	51	21	9	*	*	
追加9強い不安	134	21	25	93	29	25	34	28	19	*	*	
追加10性的問題	177	2	1	142	3	2	72	4	5	*	*	
追加11多飲水	175	0	5	143	3	1	67	7	7	*	*	
追加12ひきこもり	165	7	8	127	14	6	59	14	8	*	*	
追加13公共施設等の利用	177	2	1	139	3	5	57	4	20	*	*	
追加14切符・料金支払い	173	3	4	132	2	13	53	3	25	*	*	
追加15納得しないと動けない	173	3	4	138	3	6	54	17	10	*	*	
追加16予定変更の受容困難	172	4	4	138	3	6	60	16	5	*	*	

* p<0.05 Tukey法

D. 考察

現行の要介護認定一次判定の手法を用いて精神障害および知的障害者の介護ニーズを評価できるか、評価方法の修正や追加が必要かを調査することを目的に本研究を実施した。

この目的に沿い、要介護認定一次判定結果により対象者を「要支援」「要介護1」等の群にわけ、追加して実施した介護ニーズに関連する代表的な評価尺度等の結果を検討した。

その結果、知的障害については要介護認定における一次判定結果と、障害程度区分やGAF、HoNOS-LD、介護支援専門員から見た要介護度等との間に比較的高い相関が認められた。しかし、精神障害については要介護認定一次判定結果と、障害程度区分やGAF、BPRS、介護支援専門員から見た要介護度との相関は低かった。

精神障害についてこのような結果が得られたことについては様々な要因が考えられるが、第1に注目されるのは、表3に示した一次判定結果の分布の違いであろう。すなわち、知的障害においては「要介護1」を中心に一次判定結果は幅広く分布していたが、精神障害については「非該当」と「要支援」および

「要介護1」にかたまって分布していた。このように精神障害においては分布の幅が狭かったため、今回用いた各種の追加評価との相関が高くなりにくかったと推定される。第2に今回の対象者が精神障害者のどの部分を代表しているかの検討が必要である。今回の対象となった精神障害者のGAFの平均値は46.6であり、厚労省・精神科病院協会が実施した平成16年精神障害者サービス・ニーズ調査における対象者のGAF平均値であった45.8とほぼ同じであったことから、今回の対象者が著しく軽症者に偏っていたとは言えない。今回の対象者の中でもっとも重い病態を有すると推定されるのは精神科療養病棟の在棟患者であったが、表3から、これらの対象者についても一次判定結果は「非該当」「要支援」から

「要介護1」が中心で、「要介護2」は11人、「要介護3」は1人にすぎなかった。精神障害の他の群と比べて精神科療養病棟の在棟患者の要介護度はより高く評価されていたが、知的障害と比べても「要介護2」以上に評価されたものが少なかったことについては、今後さらに検討を進める必要がある。

一次判定結果の群別にみた各種の追加評価の分布から、一次判定結果が重いほど、各評価尺度の評価の中央値は重かったが、しかし、

一次判定の群内での分布の幅は広く、また群間での分布の重なりも大きかった。

一次判定結果の群別にみた状態像を検討したところ、第5群「身の回りのことなど」および第7群「問題行動等」において「要介護1」以上の群は他の群と比べて第5群、第7群に含まれる項目の評価が有意に重かった。しかし、「非該当」と「要支援」を比較すると有意な差はみられなかった。これらの結果から、一次判定はこれらの群に関連した介護ニーズをある程度反映するものの、上記の追加評価で述べたと同様に介護ニーズを明瞭に段階分けるとは言えなかった。

今回は要介護認定一次判定結果を他の代表的な尺度の評価結果と比較検討する方法で研究を実施したが、以上のように、ある程度の関連はあるものの十分に高い相関は得られなかったため、今後は一次判定で評価される身体的介護ニーズ等以外の他の介護ニーズもとらえることの出来るタイムスタディ等を実施して検討を進めることが必要と考えられた。

E. 結論

本研究の対象者については、現行の要介護認定基準は身体介護等の介護ニーズの一部を反映していると考えられた。しかし、知的障害と精神障害のそれぞれにおいて、現行要介護認定で評価される要因以外の関与も推定されるので、さらに検討を進めることが必要と考えられた。今後、知的障害者および精神障害者の介護ニーズをより適切に評価する客観的な方法として、タイムスタディ等の方法の開発が必要と考えられる。

F. 健康危険情報

本調査により状態が悪化したり危険に陥ったとの報告はない。

G. 研究発表

論文

瀬戸屋雄太郎、安西信雄：(コラム精神看護キーワード事典) 介護保険：精神障害にも導入されると…。精神看護 7(5)：98-100, 2004

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし。
2. 実用新案登録
なし。
3. その他
なし。

資料1 統計処理結果参考図表リスト

1. 対象者基本属性

表A-1. 基本属性記述統計表（知的障害）

表A-2. 基本属性記述統計表（精神障害）

2. 認定調査項目と主要変数の相関

表B-1～表B-4. 要介護認定項目と主要変数とのSpearman相関分析（知的障害）

表B-1. 第1群～第5群×GAF10段階、IADL困難度、IADL実施度

表B-2. 第6群～追加項目×GAF10段階、IADL困難度、IADL実施度

表B-3. 第1群～第5群×障害程度区分（生活関連動作支援、社会参加支援）、HoNOS-LD

表B-4. 第6群～追加項目×障害程度区分、HoNOS-LD

表B-5～B-8. 要介護認定項目と主要変数とのSpearman相関分析（精神障害）

表B-5. 第1群～第5群×GAF10段階、BPRS、IADL困難度、IADL実施度

表B-6. 第6群～追加項目×GAF10段階、BPRS、IADL困難度、IADL実施度

表B-7. 第1群～第5群×ケースミックス、ケア必要度、障害程度区分

表B-8. 第6群～追加項目×ケースミックス、ケア必要度、障害程度区分

3. 介護度とGAFのクロス集計（知的・精神）

表C-1. 要介護度の一次判定とGAF10段階のクロス集計（知的障害）

表C-2. 要介護度の一次判定とGAF10段階のクロス集計（精神障害）

4. 一次判定結果と支援費項目への回答分布

図A-1. 一次判定結果と生活関連動作支援費項目への回答分布（知的障害）

図A-2. 一次判定結果と生活関連動作支援費項目への回答分布（精神障害）

図B-1. 一次判定結果と社会参加支援項目への回答分布（知的障害）

図B-2. 一次判定結果と社会参加支援項目への回答分布（精神障害）

5. ケーススタディー対象者データ

表D. ケーススタディー対象者データ

6. ケーススタディー対象施設—安西班調査対象者のケア必要度レーダーチャート

表E. ケーススタディー対象者状態像

7. ケーススタディー対象者サマリー

表F. ケーススタディー対象者サマリー

資料2 評価尺度類セット

1. 施設基本調査票
2. 認定調査票
3. 医師調査票（知的）
4. 医師調査票（精神）
5. ケア担当者調査票（知的）
6. ケア担当者調査票（精神）
7. 本人調査票

表A-1. 基本属性記述統計表 (施設類型別: 知的障害)

	知的障害全体			入所更生施設			通所更生施設			通所授産施設		
	有効回答	平均	SD	有効回答	平均	SD	有効回答	平均	SD	有効回答	平均	SD
年齢	366	48.6	28.1	151	68.8	32.1	40	31.4	8.0	79	35.0	10.6
I Q	230	32.9	17.5	133	25.8	14.5	35	27.1	9.9	18	51.5	9.1
GAF	363	35.4	25.1	148	25.4	10.9	40	8.4	8.7	79	60.9	11.4
HoNOS得点	361	19.3	12.3	148	23.1	11.7	40	24.0	8.3	77	10.3	6.0
ADL	357	3.9	6.9	148	1.8	4.3	40	7.5	6.6	79	1.3	2.4
IADL困難度	338	10.4	3.8	124	12.2	2.1	40	12.4	2.5	79	8.2	2.4
IADL実施度	362	19.7	6.2	147	23.0	3.3	40	20.9	2.4	79	16.8	4.8
障害程度区分												
生活関連動作支援	366	22.2	10.3	151	24.3	8.9	40	26.5	6.4	79	13.8	4.9
社会参加支援	366	21.3	8.3	151	24.5	7.7	40	24.6	4.7	79	13.2	3.9
直接的なケア	366	28.1	26.7	151	29.9	32.8	40	35.8	29.5	79	13.5	9.5
見守り	366	71.9	26.7	151	70.1	32.8	40	64.3	29.5	79	86.5	9.5
	有効回答	N	%	有効回答	N	%	有効回答	N	%	有効回答	N	%
性別, 男性	364	240	65.9	151	130	86.1	40	22	55.0	78	35	44.9
問題行動あり	362	197	54.4	149	116	77.9	40	34	85.0	79	25	31.6
精神・神経症状あり	354	143	40.4	140	82	58.6	40	27	67.5	79	14	17.7

	重症心身障害児施設			入所授産施設			通所授産		
	有効回答	平均	SD	有効回答	平均	SD	有効回答	平均	SD
年齢	50	37.6	13.3	16	46.9	10.8	30	24.8	5.7
I Q	0	—	—	16	37.3	10.2	28	59.6	8.3
GAF	50	12.7	11.9	16	59.8	10.5	30	78.1	10.6
HoNOS得点	50	30.6	8.7	16	5.8	3.1	30	5.6	4.2
ADL	44	16.3	8.2	16	0.1	0.3	30	0.0	0.0
IADL困難度	50	13.2	2.3	15	8.9	2.7	30	2.6	1.7
IADL実施度	50	23.3	4.0	16	15.9	4.0	30	5.5	3.0
障害程度区分									
生活関連動作支援	50	35.3	6.3	16	13.4	2.7	30	10.7	4.2
社会参加支援	50	29.3	2.9	16	14.4	2.4	30	12.7	2.8
直接的なケア	50	25.1	10.0	16	34.7	13.7	30	48.2	25.0
見守り	50	74.9	10.0	16	65.3	13.7	30	51.8	25.0
	有効回答	N	%	有効回答	N	%	有効回答	N	%
性別, 男性	49	25	51.0	16	8	50.0	30	20	66.7
問題行動あり	50	13	26.0	14	8	57.1	30	1	3.3
精神・神経症状あり	49	10	20.4	16	10	62.5	30	0	0.0

表A-2. 基本属性記述統計表（施設類型別：精神障害）

	精神障害全体		生活訓練施設		通所授産施設		グループホーム		福祉ホームB		福祉ホームA				
	有効回答	平均	SD	有効回答	平均	SD	有効回答	平均	SD	有効回答	平均	SD			
年齢	344	53.0	19.1	59	59.6	26.6	47	50.0	18.1	10	63.2	26.7	12	49.4	15.9
I Q	87	59.9	25.3	13	24.2	31.0	2	53.0	1.4	0	—	—	0	—	—
G A F 尺度	362	46.6	17.1	66	56.8	11.5	53	55.5	11.9	10	57.7	11.4	9	54.4	5.3
BPRS	351	20.9	15.5	66	19.2	15.1	52	22.4	17.6	10	16.8	15.4	9	17.6	7.1
ケア必要度総得点	458	2.3	1.0	97	1.9	0.5	98	1.9	0.6	30	2.3	0.8	11	2.2	0.4
ADL	361	0.4	1.5	66	0.3	1.0	53	0.1	0.3	10	0.2	0.4	9	0.0	0.0
IADL困難度	347	6.0	4.6	66	3.3	2.8	51	2.6	2.7	10	3.4	3.5	9	0.7	1.7
IADL実施度	360	10.4	8.5	65	4.4	4.0	53	4.3	4.6	10	4.5	5.4	9	1.0	2.3
障害程度区分															
生活関連動作支援	463	6.7	7.5	95	3.2	3.0	89	2.2	2.7	31	5.4	4.7	11	4.5	2.8
社会参加支援	468	11.2	9.2	95	5.7	4.6	92	5.5	5.1	31	7.9	6.7	11	9.6	5.7
直接的なケア	481	22.0	19.4	99	13.9	20.1	105	20.6	21.1	31	26.3	24.3	11	20.9	10.9
見守り	483	78.1	19.5	99	86.1	20.1	105	79.5	21.1	31	73.7	24.3	11	79.1	10.9
	有効回答	N	%	有効回答	N	%	有効回答	N	%	有効回答	N	%	有効回答	N	%
性別、男性	341	242	71.0	60	45	75.0	43	29	67.4	10	8	80.0	9	1	11.1
問題行動あり	362	218	60.2	66	32	48.5	53	25	47.2	10	3	30.0	9	1	11.1
精神・神経症状あり	356	308	86.5	66	60	90.9	53	52	98.1	10	10	100.0	9	6	66.7
	有効回答	N	%	有効回答	N	%	有効回答	N	%	有効回答	N	%	有効回答	N	%
	341	242	71.0	60	45	75.0	43	29	67.4	10	8	80.0	9	1	11.1
	362	218	60.2	66	32	48.5	53	25	47.2	10	3	30.0	9	1	11.1
	356	308	86.5	66	60	90.9	53	52	98.1	10	10	100.0	9	6	66.7

	地域生活支援センター		就労支援センター		精神科療養病棟		高次脳機能障害		
	有効回答	平均	SD	有効回答	平均	SD	有効回答	平均	SD
年齢	9	44.3	23.0	9	44.1	13.5	150	54.4	14.0
I Q	0	—	—	1	65.0	—	27	56.8	14.4
G A F 尺度	9	61.7	9.4	9	60.1	10.5	151	35.4	15.6
BPRS	9	19.7	7.3	9	16.7	9.8	149	26.9	13.6
ケア必要度総得点	18	1.7	0.3	10	2.1	0.3	139	3.2	1.0
ADL	9	0.0	0.0	9	0.0	0.0	151	0.6	1.9
IADL困難度	7	1.9	2.0	9	1.3	1.7	144	9.6	3.5
IADL実施度	9	2.6	1.8	9	2.2	4.5	149	17.5	6.8
障害程度区分									
生活関連動作支援	18	2.4	1.9	10	1.7	2.1	155	12.4	8.5
社会参加支援	18	4.2	2.0	10	6.8	3.6	156	20.1	7.9
直接的なケア	18	3.6	5.6	10	37.0	12.5	157	29.5	15.1
見守り	18	96.4	5.6	10	63.0	12.5	157	70.5	15.1
	有効回答	N	%	有効回答	N	%	有効回答	N	%
性別、男性	9	6	66.7	9	2	22.2	148	108	73.0
問題行動あり	9	4	44.4	9	3	33.3	150	135	90.0
精神・神経症状あり	9	9	100.0	9	8	88.9	147	114	77.6
	有効回答	N	%	有効回答	N	%	有効回答	N	%
	9	6	66.7	9	2	22.2	148	108	73.0
	9	4	44.4	9	3	33.3	150	135	90.0
	9	9	100.0	9	8	88.9	147	114	77.6

表B-1. 要介護認定項目と主要変数とのSpearman相関分析(知的障害)

第1群 麻痺・拘縮等	GAF10段階		IADL困難度		IADL実施度	
	N	r _s	N	r _s	N	r _s
麻痺(左-上肢)	362	-0.25 ***	338	0.20 ***	362	0.08
麻痺(右-上肢)	362	-0.29 ***	338	0.21 ***	362	0.09
麻痺(左-下肢)	362	-0.32 ***	338	0.34 ***	362	0.22 ***
麻痺(右-下肢)	362	-0.33 ***	338	0.32 ***	362	0.23 ***
麻痺(その他)	362	-0.03	338	-0.01	362	-0.05
拘縮(肩関節)	362	-0.14 **	338	0.14 *	362	0.05
拘縮(肘関節)	362	-0.18 ***	338	0.13 *	362	0.01
拘縮(股関節)	362	-0.22 ***	338	0.17 **	362	0.09
拘縮(膝関節)	362	-0.17 ***	338	0.14 *	362	0.06
拘縮(足関節)	362	-0.25 ***	338	0.19 ***	362	0.09
拘縮(その他)	362	-0.15 **	338	0.13 *	362	0.10

第2・3群 移動・複雑な動作等	GAF10段階		IADL困難度		IADL実施度	
	N	r _s	N	r _s	N	r _s
寝返り	346	-0.30 ***	322	0.25 ***	346	0.12 *
起き上がり	346	-0.40 ***	322	0.34 ***	346	0.21 ***
座位保持	346	-0.32 ***	322	0.27 ***	346	0.12 *
両足立位保持	346	-0.35 ***	322	0.32 ***	346	0.21 ***
歩行	346	-0.39 ***	322	0.36 ***	346	0.22 ***
移乗	346	-0.44 ***	322	0.40 ***	346	0.29 ***
移動	345	-0.48 ***	321	0.47 ***	345	0.32 ***
立ち上がり	346	-0.40 ***	322	0.39 ***	346	0.26 ***
片足立位保持	346	-0.43 ***	322	0.48 ***	346	0.35 ***
洗身	345	-0.71 ***	321	0.73 ***	345	0.66 ***

第4群 特別な介護等	GAF10段階		IADL困難度		IADL実施度	
	N	r _s	N	r _s	N	r _s
じょくそう	345	0.09	321	-0.09	345	-0.09
皮膚疾患	345	-0.12 *	321	0.14 *	345	0.13 *
嚥下	346	-0.40 ***	322	0.41 ***	346	0.28 ***
食事摂取	346	-0.57 ***	322	0.55 ***	346	0.43 ***
飲水	345	-0.58 ***	321	0.59 ***	345	0.47 ***
排尿	346	-0.55 ***	322	0.58 ***	346	0.45 ***
排便	346	-0.62 ***	322	0.62 ***	346	0.48 ***

第5群 身の回りのことなど	GAF10段階		IADL困難度		IADL実施度	
	N	r _s	N	r _s	N	r _s
口腔清潔	344	-0.72 ***	320	0.72 ***	344	0.66 ***
洗顔	344	-0.72 ***	320	0.72 ***	344	0.62 ***
整髪	344	-0.72 ***	320	0.73 ***	344	0.62 ***
つめ切り	344	-0.67 ***	320	0.67 ***	344	0.63 ***
上衣の着脱	345	-0.62 ***	321	0.63 ***	345	0.51 ***
ズボン等の着脱	345	-0.61 ***	321	0.63 ***	345	0.51 ***
薬の内服	346	-0.69 ***	322	0.70 ***	346	0.66 ***
金銭管理	346	-0.71 ***	322	0.79 ***	346	0.68 ***
電話の利用	345	-0.66 ***	321	0.76 ***	345	0.67 ***
意思決定	344	-0.70 ***	320	0.70 ***	344	0.62 ***

* p < 0.05, ** p < 0.01, *** p < 0.001

表B-2. 要介護認定項目と主要変数とのSpearman相関分析(知的障害)

第6群 コミュニケーション関連	GAF10段階		IADL困難度		IADL実施度	
	N	r _s	N	r _s	N	r _s
視力	346	-0.26 ***	322	0.26 ***	346	0.16 **
聴力	346	-0.04	322	0.10	346	0.05
意思伝達	346	-0.70 ***	322	0.71 ***	346	0.59 ***
介護者の指示への反応	342	-0.65 ***	318	0.63 ***	342	0.55 ***
毎日の日課を理解	345	-0.63 ***	321	0.71 ***	345	0.57 ***
生年月日をいう	345	-0.58 ***	321	0.70 ***	345	0.63 ***
短期記憶	345	-0.61 ***	321	0.68 ***	345	0.58 ***
自分の名前をいう	345	-0.62 ***	321	0.65 ***	345	0.48 ***
今の季節を理解	344	-0.60 ***	320	0.70 ***	344	0.61 ***
場所の理解	344	-0.63 ***	320	0.66 ***	344	0.52 ***

第7群 問題行動等	GAF10段階		IADL困難度		IADL実施度	
	N	r _s	N	r _s	N	r _s
被害的	345	-0.03	321	-0.03	345	0.03
作話	345	0.01	321	-0.08	345	-0.08
幻視幻聴	345	-0.03	321	0.09	345	0.06
感情が不安定	346	-0.18 ***	322	0.15 **	346	0.13 *
昼夜逆転	346	-0.10	322	0.13 *	346	0.15 **
暴言暴行	346	-0.15 **	322	0.14 *	346	0.18 ***
同じ話をする	345	-0.10	321	0.08	345	0.09
大声を出す	345	-0.24 ***	321	0.22 ***	345	0.25 ***
介護に抵抗	346	-0.24 ***	322	0.24 ***	346	0.25 ***
常時の徘徊	346	-0.24 ***	322	0.19 ***	346	0.15 **
落ち着きがない	346	-0.15 **	322	0.08	346	0.07
外出して戻れない	345	-0.24 ***	321	0.19 ***	345	0.14 **
一人で出たがる	346	-0.22 ***	322	0.17 **	346	0.16 **
収集癖	346	-0.12 *	322	0.10	346	0.18 **
火の不始末	346	-0.24 ***	322	0.11 *	346	-0.04
物や衣類を壊す	346	-0.22 ***	322	0.19 ***	346	0.23 ***
不潔行為	346	-0.21 ***	322	0.26 ***	346	0.27 ***
異食行動	346	-0.19 ***	322	0.19 ***	346	0.20 ***
ひどい物忘れ	345	-0.23 ***	321	0.19 ***	345	0.06

追加項目 安西班対象者のみ	GAF10段階		IADL困難度		IADL実施度	
	N	r _s	N	r _s	N	r _s
追加1自傷	344	-0.17 **	320	0.10	344	0.16 **
追加2奇声	344	-0.30 ***	320	0.22 ***	344	0.26 ***
追加3パニック状態	344	-0.20 ***	320	0.10	344	0.14 **
追加4こだわり	345	-0.26 ***	321	0.24 ***	345	0.26 ***
追加5注意散漫	344	-0.19 ***	320	0.20 ***	344	0.17 **
追加6妄想など	343	0.00	319	0.00	343	-0.01
追加7衝動的	344	-0.17 **	320	0.09	344	0.12 *
追加8過活動	344	-0.21 ***	320	0.22 ***	344	0.22 ***
追加9強い不安	343	0.03	319	-0.05	343	-0.01
追加10性的問題	344	-0.14 **	320	0.13 *	344	0.06
追加11多飲水	345	-0.13 *	321	0.14 *	345	0.11 *
追加12ひきこもり	344	-0.09	320	0.15 **	344	0.12 *
追加13公共施設等の利用	344	-0.24 ***	320	0.19 ***	344	0.20 ***
追加14切符・料金支払い	344	-0.25 ***	320	0.22 ***	344	0.16 **
追加15納得しないと動けない	343	-0.22 ***	319	0.21 ***	343	0.21 ***
追加16予定変更の受容困難	343	-0.19 ***	319	0.14 *	343	0.15 **

* p < 0.05, ** p < 0.01, *** p < 0.001

表B-3. 要介護認定項目と主要変数とのSpearman相関分析(知的障害)

第1群 麻痺・拘縮等	障害程度区分				HoNOS得点	
	生活関連動作支援		社会参加支援			
	N	r _s	N	r _s	N	r _s
麻痺(左-上肢)	366	0.36 ***	366	0.27 ***	361	0.24 ***
麻痺(右-上肢)	366	0.36 ***	366	0.26 ***	361	0.23 ***
麻痺(左-下肢)	366	0.51 ***	366	0.42 ***	361	0.36 ***
麻痺(右-下肢)	366	0.50 ***	366	0.41 ***	361	0.36 ***
麻痺(その他)	366	0.06	366	0.08	361	0.07
拘縮(肩関節)	366	0.24 ***	366	0.17 ***	361	0.13 *
拘縮(肘関節)	366	0.30 ***	366	0.22 ***	361	0.17 **
拘縮(股関節)	366	0.33 ***	366	0.26 ***	361	0.20 ***
拘縮(膝関節)	366	0.32 ***	366	0.25 ***	361	0.17 **
拘縮(足関節)	366	0.36 ***	366	0.27 ***	361	0.25 ***
拘縮(その他)	366	0.28 ***	366	0.23 ***	361	0.22 ***

第2・3群 移動・複雑な動作等	障害程度区分				HoNOS得点	
	生活関連動作支援		社会参加支援			
	N	r _s	N	r _s	N	r _s
寝返り	350	0.43 ***	350	0.32 ***	345	0.30 ***
起き上がり	350	0.54 ***	350	0.42 ***	345	0.40 ***
座位保持	350	0.47 ***	350	0.34 ***	345	0.33 ***
両足立位保持	350	0.52 ***	350	0.40 ***	345	0.37 ***
歩行	350	0.54 ***	350	0.43 ***	345	0.40 ***
移乗	350	0.61 ***	350	0.50 ***	345	0.47 ***
移動	349	0.62 ***	349	0.54 ***	344	0.50 ***
立ち上がり	350	0.58 ***	350	0.46 ***	345	0.44 ***
片足立位保持	350	0.65 ***	350	0.56 ***	345	0.50 ***
洗身	349	0.79 ***	349	0.75 ***	344	0.70 ***

第4群 特別な介護等	障害程度区分				HoNOS得点	
	生活関連動作支援		社会参加支援			
	N	r _s	N	r _s	N	r _s
じょくそう	349	-0.06	349	-0.07	344	-0.08
皮膚疾患	349	0.15 **	349	0.16 **	344	0.18 ***
嚥下	350	0.52 ***	350	0.42 ***	345	0.44 ***
食事摂取	350	0.66 ***	350	0.57 ***	345	0.56 ***
飲水	349	0.67 ***	349	0.57 ***	344	0.55 ***
排尿	350	0.71 ***	350	0.62 ***	345	0.60 ***
排便	350	0.73 ***	350	0.64 ***	345	0.63 ***

第5群 身の回りのことなど	障害程度区分				HoNOS得点	
	生活関連動作支援		社会参加支援			
	N	r _s	N	r _s	N	r _s
口腔清潔	348	0.71 ***	348	0.73 ***	343	0.68 ***
洗顔	348	0.75 ***	348	0.70 ***	343	0.68 ***
整髪	348	0.78 ***	348	0.74 ***	343	0.72 ***
つめ切り	348	0.68 ***	348	0.69 ***	343	0.64 ***
上衣の着脱	349	0.74 ***	349	0.64 ***	344	0.65 ***
ズボン等の着脱	349	0.74 ***	349	0.64 ***	344	0.65 ***
薬の内服	350	0.74 ***	350	0.75 ***	345	0.70 ***
金銭管理	350	0.67 ***	350	0.70 ***	345	0.66 ***
電話の利用	349	0.65 ***	349	0.68 ***	344	0.66 ***
意思決定	348	0.63 ***	348	0.60 ***	343	0.68 ***

* p < 0.05, ** p < 0.01, *** p < 0.001